

第3期宮前区区民会議 第9回 地参知笑部会 摘録

日 時 平成23年9月28日(水) 18:00~20:00

場 所 宮前区役所 地域振興課奥会議室

参加者 委 員 持田部会長、恒川副委員長、山下委員長、河井委員、久保委員、
中村委員、高橋委員、平井委員、吉田委員、
直本副委員長(オブザーバー)

事務局 有山企画課長、雨宮係長、白石職員
佐谷コンサルタント

1 前回の振り返り

持田 摘録については見ていただいて修正等あれば知らせてほしい。

2 区の情報戦略について

高橋 (プロジェクターによるインターネットについての解説)

平井 ツイキャスはどれぐらいの人が見ているか?

久保 うまく検索に引っかからないと見ない。

高橋 ツイッターで情報を流して見てもらう。

持田 宮前ぼ一たろう等とつなげることもできるのか?

高橋 できる。みやまえ映像コンクールの映像もあるが、伝えることができてない。

久保 若い人とやれるとよい。

持田 情報発信としては有効だと思う。冊子を1万部作って転入者に配ることに加えて何をやっていくか。

平井 宮前ぼ一たろうをもっと使ってもらうようにできないか。

高橋 宮前ぼ一たろうはお店情報が中心になっている。

河井 前の区民会議の時は宮前ぼ一たろうに積極的だった。

恒川 麻生区の情報発信は区がやっているのか。

区 民間でやっている。

恒川 やっていくことは賛成だが、クレームが来た時に対応できないのではないかと。更新や費用のこともある。情報発信に使っていくということが結論ではないか。

平井 募集してはどうか。市民館で募集する。

高橋 宮前ぼ一たろうは「まいぷれ」という会社がやっている。市内には5つのポータルサイトがある。

区 麻生区にはメールマガジンがある。

高橋 メールであると音声で読み上げてくれる。

持田 今回で結論が出るわけではないので今後も検討したい。

佐谷 自治体の情報発信としては、ツイッター等があり、ツイッターは自治体の公式の場合はお知らせが多い。ゆるキャラなどは市民がやっている場合もある。

持田 冊子との関係はどうなるか。

佐谷 冊子に載っているイベント情報を数日前にお知らせしたり、今やっているということをつぶやくと人が集まってくる。ツイッターは即時性がある。震災を期に公式でや

第3期宮前区区民会議 第9回 地参知笑部会 摘録

る自治体が増えた。

3. コミュニティへの参加を促す冊子について

持田 市民館で講座をやることは確実か？

区 ほぼ確実に実現できると思う。

久保 講座内容を見るとスキルアップのためというイメージがある。地域のコミュニティづくりのための冊子づくりとどう結びつけていくか。

区 講座の設置目的として「地域のコミュニティづくり」を入れていく。

久保 地域コミュニティとのつながりをつくりながら、スキルアップにつなげるということではないか。

平井 冊子の内容を講座の参加者にきちんと伝えないといけない。我々が考えていることと違う冊子ができるかと困る。

区 内容については区民会議提案が前提になる。冊子をつくり、それをソーシャルメディアで広げていく。大学生の場合、それを後輩の学生につなげていってもらえればいいと思う。

区 市民館は何かをつくるのが目的ではない。学ぶことが目的となる。

河井 市民館でやる必要はあるのか。

久保 とことは情報誌がほしい人が集まって作った。

区 市民館は人材育成が目的。冊子をつくるのであれば実行委員会を作った方が早い。今回は完成度を高めていくよりは、人材育成が主眼となっている。

平井 今までやってきたことと切り離されるのではないか。

区 区民会議の提案に対するストライクゾーンを広めにとってほしい。講座を受けた人に宮前情報サポーターズになってもらう。

久保 宮前情報サポーターズの位置づけをきちんとする。受けた人はサポーターになってもらう。また、誰に来てもらうか。お母さんも来ていいなら保育をつけないといけない。また、町内会の人を受講すると面白いと思う。町会のホームページとか、ツイッターとかへの展開が期待できる。

河井 冊子とネットが並列になっている。

区 冊子の比重が8割ぐらいになると思う。

平井 区民会議で提案したものをつくってもらうことが伝わるのか。

高橋 人に任せるのであればある程度は変わる。主旨を伝えるのであれば講師はこのメンバーになってもらう。また、グループ化していかないといけない。

久保 子育て世代でつくっている通信のレベルアップのために誘うことができるといいと思う。

恒川 冊子をつくるのは受講生が全部やると考えなくてもいいのではないか。ネットの情報発信は若い人にやってもらう。担い手を学生に引き継いでもらう。

直本 区民会議から発展した様々な活動の情報発信をやってもらうことを別途考えないといけない。

持田 区民会議から実行委員会に引き継ぐと抜けられないという話があって、新しい人材を発掘しようということだったと思う。この講座で冊子をつくるということではな

第3期宮前区区民会議 第9回 地参知笑部会 摘録

かったか。

平井 冊子をつくるのであれば、目的がスキルの習得だと話が違う。

持田 実際につくる場合は、区民会議の提案どおりではないと思う。ストライクゾーンが広いとはそういうこと。

久保 「区の情報誌をつくろう！」という講座名でいいのではないか。

恒川 市民館は冊子を作ることを義務化できない。

高橋 冊子を作ることはお願いできるのではないか。

久保 情報サポーターズになるかは義務化できない。

高橋 区民会議の人が情報サポーターズになってもいいのではないか。ただ、活動していると情報発信に時間が避けないので、情報発信だけのグループがあってもいい。「記者育成講座」という名称はどうか。

直本 大学への働きかけを基本すると、人が卒業などでいなくなる。

山下 つないでいくといいのではないか。

高橋 誰を集めるかはもう一度考えてもいいのではないか。

平井 冊子づくりの担い手づくりというのをはっきりうたったほうが方がいい。

区 作成しながらスキルを学ぶということを書く。講座名も考える。

持田 サポーターズのこと講座の最初で話した方がいい。

高橋 サポーターズのお金や受け皿はどうなのか。

区 冊子や歳時記をつくる経費はある。窓口は企画課となる。

平井 市民館の講座に企画課が関わるということでもいいのか。

区 そうなる。ただし、企画課としてその後の組織の事務局となるのは厳しい。

久保 冒険遊び場は支援会が2年間は立ち上げ支援をするが、そのあとは独立する。

高橋 宮前ぼ一たろの市民記者がいなくなってしまった。窓口はしっかりしてほしい。

持田 継続の仕組みが何かないか。冊子の改定費だけで継続できるか。

区 サポーターズがどういう組織になるかによって違ってくる。地域情報発信事業であれば交通費だけ予算化するというのもある。

直本 区民会議として毎年1万部つくることを提案してはどうか。

区 1万部増刷することはできる。改定するときにはサポーターズが団体になっていると委託できる。

持田 来年は講座をやるが、その先はどうなるか。企画課がついているから大丈夫か？

区 企画課は窓口になるが、行政がべったりでない組織になるとよい。

山下 毎年7000世帯が変わっている。その人達に情報発信していくために、冊子を作るという骨子を見失わないようにしたい。

久保 3年は配布したい。

区 区民会議の提案も期が変わっても再度出してもいいと思う。

持田 講座の内容はどのように打ち合わせをするのか？

区 まず、講師の目星をつけたい。

持田 講座の内容は区に任せてもいいのか。

高橋 対象者は再度考えた方がいい。

佐谷 これまでの話では、来年の区民館で開催する講座の目的、名称、対象者のことと、

第3期宮前区区民会議 第9回 地参知笑部会 摘録

それ以降の改訂の仕組みや情報サポーターズの仕組みをどうしていくかという話が出ていた。

持田 次回はそれらを話しあうとということにしたい。

4. その他

区 次回は11月2日とする。

区 新総合計画の評価をした。評価の中身に対して意見があれば送ってほしい。